

## ★第 17 回非同盟国首脳会議でのマレーシア・マハティール首相の演説

「バンドン原則を守り、現代世界の課題への一致した適切な対応を確実にする」

アゼルバイジャン バクー コンgressセンター プレナリーホールにて  
2019 年 10 月 25 日（金曜日） 午後 3 時 30 分

先ず初めに、この度の非同盟国首脳会議の議長国を引き受け、サミット主催の労を執ったアゼルバイジャン共和国に心から感謝し、代表団への温かいおもてなしと様々な素晴らしい手配にお礼を申し上げます。

また、3 年間にわたって運動の議長を務め、運営に携わったベネズエラ共和国に心から感謝します。

今回のサミットに参加できて本当に嬉しく思います。私がこのイベントに携わったのは、マレーシアが議長国を務めた 2003 年でした。あれから 16 年、多くの変化がありました。

本日、私は「バンドン原則を守り、現代世界の課題への一致した適切な対応を確保する」というテーマでお話したいと思います。

バンドン原則は 60 年以上前に構築されたもので、それ以降に様々な変化が起きたことは明らかです。しかし私たちはこの原則に立ち戻ろうとしています。それはこの原則が時代を超越し、今日も有効性を保っていることを意味しているに違いありません。

私が思うに、東西冷戦の時代、どちらのブロックにも引きずり込まれず、両陣営の平衡をとるような役割を果たした、独立的な国家群の存在の重要性を見抜いた先駆者の知恵に負うところが大きいと思います。

冷戦が終わり、イデオロギーの違いが外交論争に役立たなくなったかもしれませんが、しかし世界はまだ平和ではありません。今のところ次の世界大戦に直面していないとは言え、小規模な戦争や内戦、侵略、反乱、占領が引き起こしている破壊や死傷は、大戦同様に壊滅的と言うしかありません。それらが最新の高性能兵器がもたらしたものであることも、言うまでもありません。

まさにこのような現代世界の難題に対処するための手立てを見つけるべく、ここに一堂に会しているわけであります。

## 現在の世界情勢

2003年に私は「世界は恐怖の中にある」と言いました。あの当時、相手国を世界の脅威と決めつけて軍事行動を正当化し、平和な小国を脅しあげて味方につけるために「お前は味方か、それとも敵か」の常套句が使われました。あれはイラク侵略の数週間前のことでした。

攻撃を正当化する口実として使われたのは、イラクが大量破壊兵器を保有しているという非難だけでした。侵略が開始され、国家が完全に破壊され、その後占領されました。同志のタカ派の国々が仲間に加わり多国籍軍として軍事行動を行い、それを「有志連合」と称しました。恐るべき戦争集団に付けられた美名と言うべきでしょう。

侵略が終わり、大量破壊兵器は発見されなかった、それでオシマイ。国家は完全に破壊されました。反省と復興の努力の代りになされたことは、国の富の略奪であり戦利品の分配でした。

これが、私が「世界は恐怖の中にある」と言った理由です。好戦的で弱い者いじめの超大国に抵抗する国は、侵略されて木っ端みじんにされるリスクを負うことになります。そしてこうした軍事作戦は国連の制裁なしで行われるのです。

それは16年前のことでした。今も私たちはそのような恐怖の中にいるのでしょうか？イラク侵攻後の中東で起こったことから判断するに、アプローチがより巧妙になっているものの、一方的且つ「ブロック」的な挑発行為が依然として広く行われていることは疑いありません。政権交代や民主主義の輸出がいかにかに国家と現代の文明を消耗させ、崩壊せしめたかを目撃してきました。

我々非同盟国の中にこれを経験した国がありました。将来同様の運命を蒙る国があるかもしれませんが、そんなことは絶対にあってはなりません。

## 貿易戦争の影響

戦争の脅威が私たちの頭上に気味悪く迫る一方で、貿易上の紛争が貿易戦争へ

と急速に転化し、私たちの経済に大混乱を引き起こしています。

貿易戦争が引き起こす不確実性によって、国は計画を立てて経済を発展させることが出来なくなり、国民を貧困に陥れて社会不安を高め、闘争、反乱、紛争へと発展する原因にもなります。

貿易戦争が武力戦と同じくらい破壊的で国を荒廃させることが分かってきており、貿易を武器として使う事が、国家を窒息死させる陰湿な手段となっています。

ますます厳しく長期化している貿易紛争がいつ終わるのか、その影響がどれほど深刻な爪痕を残すのか、マレーシアやその他の国々が懸念しているところです。

好むと好まざるとにかかわらず、世界最大の経済圏の間の貿易戦争が世界の貿易システムを破壊することは間違いありません。ビジネスは円滑に計画を進めて混乱を回避しなければなりません。しかし関税、対抗関税やその他の自由貿易に対する障害は、今や「新しい常態」になりつつあります。

米中間の大規模な貿易戦争はもっと悪い事態の前兆かもしれず、世界の 2 大強国間の敵対関係の拡大が永遠に続くかもしれません。そして私が前に言ったように、現在の貿易紛争の背景に戦略地勢学的なライバル関係が今のところ無いにしても、世界規模の貿易紛争を長引かせることになるでしょう。

遺憾ながら、マレーシアは間に挟まってしまいました。経済的に両方の市場にリンクしており、地理的にも両方に挟まれています。

我々は ASEAN の近隣諸国に対し、超大国の激突の影響を緩和する上で、国の弾力性を強化することの必要性を呼び掛けてきました。つまり、競争力を高めることによってキャパシティを構築するのです。友人である非同盟国に申し上げたい、我々は皆、同じ行動をとらねばなりません。

### **戦争を犯罪化し、紛争の解決策とせず**

私は最近の国連での演説で、マレーシアが戦争を犯罪化するキャンペーンを始めたことを各国に伝えました。このキャンペーンの基本は、ひと一人を殺した

犯罪者を絞首刑にするのに、何百万人もの死に責任のある人間を称賛するのはおかしいではないか、ということです。

私たちが皆知っているように、現代の戦争はあらゆる意味で総力戦です。戦闘員が殺されるだけでなく、子供、病人、障害者など罪のない人々も犠牲者となります。その上、国の隅々まで荒廃し尽くし、数兆ドルが失われます。結果として勝者と敗者の両方が苦しむことになるのです。

ところで、私たちは自分が文明化されていると思っていますが、国家間や国内の紛争を解決する手段として人を殺すことを当然としているのですから、まだ非常に原始的だと言わねばなりません。

紛争を解決するには他の方法があります。交渉はもちろん、第三者の仲裁に委ねることが出来ます。国際司法裁判所など国際的な法廷に頼ることも出来ます。これを敢えて言うのは、マレーシアは単なる話としてではなく実行に移しているからです。わが国は隣国との紛争を解決に、交渉と共に国際裁判所を利用しています。勝つこともあるし負けることもあります。だが一人として殺された人はいません。

裁判では、正当と信じていても、常にそれを獲得できるわけではありません。戦争でも同じことが言えます。常に勝つわけではありません。2者の抗争では、一方が勝てば他方が負けなければなりません。しかし平和的手段に拠れば、敗けたとしてもコストは低く済みます。誰も死ぬことなく、土地も荒廃しません。

## パレスチナ

この機会にパレスチナの兄弟たちが直面している気の毒な状況について提起したいと思います。パレスチナでは残忍な政権によって占領された状態が続いています。この政権はパレスチナ人の正当な所有地で入植地を拓くという違法行為を続けています。更に最悪なことに、イスラエルはヨルダン川西岸の一部を併合する意思を表明しています。これは明らかに国際法に違反する動きです。

イスラエルはエルサレムを首都にすると主張しました。多くの西側諸国が大使館を移転し、あるいは移転すると誓約することによってこの動きを支援しています。マレーシアはこれに同意しません。大使館をエルサレムに既に移転し、あるいは移転を計画する非同盟国に対して、決定を再考するように要請します。

我々としては、マレーシアはパレスチナが信任する大使館を開設するつもりです。マレーシアが占領地域に大使館を開設することをイスラエルが許さないことは承知しています。このため、我々はヨルダンに大使館を開設したいと思えます。そうすることで、我々のパレスチナ人への支援拡大が容易になります。しかしイスラエルはパレスチナに援助が届かないように手を尽くすでしょう。

政権が何を望んでいるかは明らかです。パレスチナとパレスチナ人の生活を窒息させるべく日々全力をあげ、最終的にパレスチナ人の土地がなくなるまで没収し続けるという、残酷で非人道的な道筋をつけているのです。しかし国際社会は何もしていない。国際社会は何もできないでいるのです。

残念なことは、強大国によって設立された世界組織において、それを設立した人たちが世界組織の決議を無視していることです。今、その他の人たちも同じことをしているようです。

### **非同盟国は団結するべき**

私がこの前に演説して以降、運動が以前とは異なったものになっている認識しています。以前、非同盟運動は一つの声でした。我々は同じ立場で団結し、バンドン原則の10項目で一致していました。主権平等の尊重、領土保全、国家独立の尊重について、勇気を持って明解に語り合いました。正義と国際法の原則を擁護しました。民族自決権の尊重に疑いを持ちませんでした。我々は一致団結して働くことによって、更に多くのことを成し遂げました。残念ながら、今はそうではないようです。

我々は分裂しています。我々が分断したのは、価値観や原則を共有できなくなったからではなく、経済的利益や貿易条件のエサに誘惑されているからです。私たちは強大国にそそのかされています。あるいは、強者の意思に屈するしかないという恐怖感にとらわれています。彼等は我々を通商禁止、経済制裁、あるいは更に悪質な措置で脅しています。

我々はもはや団結していない。代りにやっていることはつまらない口喧嘩です。あらゆる機会を利用して相手をあげつらうばかりです。

我々にそれぞれ違いがあることは分かっています。いつの時も違いはありまし

た。しかし、それらの違いは対話と交渉によって解決できるものです。利用可能な平和的手段があり、それらを使われねばなりません。

我々は強大国に屈してはならないし、我々が分裂するのを見せて喜ばせるべきではありません。それは彼等に戦争屋と圧政路線継続の力を与えるだけです。そしてそれが我々を現状へと追いやって来たものなのです。

今年のサミットのテーマである「バンドン原則を守り、現代世界の難題への協調的且つ適切なる対応を確実にする」はまさに時宜を得ています。今日私たちが生きている危険な世界では、1955年バンドン会議の10原則擁護を高く掲げなければなりません。だが、我々は一致してこれに当たらなければなりません。そうしてこそ、我々は目標を達成するための運動を再生させることができるのです。それが出来てこそ、今日の不正を止めることができるのです。そうして初めて、安定した平和で調和のとれた世界を見ることができるのです。

そしてそうなってこそ、私たち非同盟運動のメンバーは、弱い者いじめの傲慢な国家の手下ではないと、身を高くして誇ることができるのです。

有難うございました。

(了)